

チャペルだより

第 211 号
2024. 4. 1

前期主題 「君が動けば何かが変わる」 (ヨハネによる福音書 5 章 6 節～ 9 節)
“Something will happen if you start taking action.” (John 5:6-9)

主題聖句 イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたいか」と言われた。病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きました。(ヨハネによる福音書 5 章 6 節～ 9 節)

編集 広島女学院大学宗教委員会 〒732-0063 広島市東区牛田東 4-13-1 TEL (082) 228-0386
http://www.hju.ac.jp/ E-mail:hjucac@gaines.hju.ac.jp



＜使徒言行録 20 章 7 節～12 節＞

週の初めの日、わたしたちがパンを裂くために集まっていると、パウロは翌日出発する予定で人々に話をしたが、その話は夜中まで続いた。

わたしたちが集まっていた階上の部屋には、たくさんのとももし火がついていた。

エウティコという青年が、窓に腰を掛けていたが、パウロの話が長々と続いたので、ひどく眠気を催し、眠りこけて三階から下に落ちてしまった。起こしてみると、もう死んでいた。パウロは降りて行き、彼の上にかがみ込み、抱きかかえて言った。「騒ぐな。まだ生きている。」そして、また上に行って、パンを裂いて食べ、夜明けまで長い間話し続けてから出発した。人々は生き返った青年を連れて帰り、大いに慰められた。

パウロはキリスト教にとっては最も重要な人物です。イエスの弟子たちを使徒と呼びますが、彼もその一人でした。しかし、イエスと行動を共にした 12 人の使徒ではありません。そもそも彼は生前のイエスに出会ったことがなかったのです。逆に、使徒たちを迫害するユダヤ教の律法学者でした、ところが、イエスの教えに出会い、従来の立場を 180 度変更し、そして殉教にいたるまで生涯、イエスが救い主であることを宣べ伝えたのでした。それは、まさにキリスト教の基礎を築く行為でした。

同時に、宣教の為に地中海諸国をめぐる伝道の旅を続ける実践の人でもありました。

今回の聖書の箇所は、ギリシャの諸都市を巡り、アテネへ足を伸ばし、トロアスの町にやってきた時です。

週のはじめの日、つまり日曜日ですが、その夕方、キリスト教の信徒たちは個人の自宅に集まり、「パン裂き」と呼ばれる現在の聖餐式の原形となった儀式をおこない、ともに語り合いました。「語り合う」をギリシャ語で「ホミレイン」と言いますが、これが英語の「ホームレックス」すなわち「説教」の語源です。説教とは、パウロの時代には語り合うという雰囲気だったのでしょうか。

「週のはじめ」とは日曜日のことですが、ユダヤ教徒であれ異教徒であれ、当時は働く日であり、夜の集会ですから一日の労働を終え、集ってきた人々は疲れていました。一人の青年エウティコが窓に腰掛けて説教を聞いていました。パウロは二階で説教していますが、彼は三階の窓際です。涼しい風が吹いています。エウティコは睡魔に襲われ、座っている場所が窓際であることも忘れ、眠り込んでしまったのです。そして、揺れた体はそのまま窓際から下の中庭へ転落してしまっただけです。説教中に眠るのは、キリスト教の歴史に中ではめずらしいことではありません。米国のニューイングランド地方はピューリタンたちが移住した土地ですが、古い 17 世紀に建てられた

院長・学長 三谷 高康 先生



教会へ行きますと、会衆席は升席で、信徒が献金すると家族で一年間使用できるシステムになっていました。ポストンでも古い教会の一つである第一会衆派教会を訪ねたとき、古い教会の用具を置いたガラスの陳列ケースに見慣れない銀製の器具が陳列されていました。1 メーター程の長い柄の先に、大きなソフトボールサイズの丸い銀製の玉（中が空洞）がついている器具がありました。これは何かと案内の方に尋ねますと、「礼拝中に居眠りをする会衆を礼拝当番がたたいて起こすための道具だ。」という、考えもしなかった答えが返ってきたのです。ピューリタンの祈りと説教は長いということでも有名です。祈りでも短くて 30 分、時には 1 時間のお祈りもしばしばで、説教にいたっては 2 時間程度は普通でした。居眠る会衆が居ても当然だったのでしょうか。でも、升席に同席している家族が突っついてでも起こせばいいんですが、ひょっとして家族全員が居眠りをするのが頻繁に起きていたからでしょうか。

いずれにしろ、キリスト教の教えで一番大切なのは「忍耐」といわれる所以です。

さて、青年が窓から落下したのは、パウロの説教が原因なのか、この青年が悪いのか、問題はそこではありません。

パウロはあわてることなく、青年に駆けよったことが重要です。

パウロはこの町へ来る前に、コリントの手紙二の 1 章 8 節で苦しい経験を吐露しています。「兄弟たち、アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ知っていてほしい。わたしたちは耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。」パウロは続けます。「わたしたちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。」と告白していたのです。

彼は絶望とは何かを経験しました。だからこそ、それを乗り越える希望をも知る人物でもありました。

死者を復活させてくださる神を信じ、パウロは青年エウティコに駆けよりました。

私たちの人生にも絶望があります。しかし、神はいかなる困難も乗り越える希望を提供してくださると聖書は証しています。

「われら四方より患難を受くれども窮せず、爲ん方つくれども希望を失はず。」

私たちの知る聖書の言葉です。

「騒ぐことはない。まだ命がある。」

かすかな命、かすかな望み。そこには患難を乗り越える原点があります。

キリスト教信仰は窮地に立った時にこそ強いと云う事を、この物語から理解してほしいと思います。

前期宗教強調週間

特別講演会講師 》》 国連訓練調査研究所(ユニタール) 広島事務所長

プログラム

5月20日(月)～24日(金)は、前期宗教強調週間です。

- * 5月21日(火) 「キリスト教の時間」 13:00～13:45 (砂本記念講堂)
「国際協力をライフワークにして」
国連訓練調査研究所(ユニタール) 広島事務所長 三上 知佐さん
- * 5月22日(水) 特別講演会 13:00～14:30 (砂本記念講堂)
「国連訓練調査研究所(ユニタール)の活動について」
国連訓練調査研究所(ユニタール) 広島事務所長 三上 知佐さん
★講師を囲む懇談会 15:00～16:30 (ゲンスチャペルロビー)
- * 5月23日(木) 「木曜日チャペル」 12:30～12:50 (ゲンスチャペル)
大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生
- ◆学内献血 5月24日(金) 受付 12:30～16:30 (ヒノハラホール前)

三上 知佐 さん



講師紹介

講師：三上 知佐 さん(国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所長)

大阪府出身。東京大学教養学部卒、コロンビア大学国際公共問題大学院で修士号取得。シティバンク勤務を経て、2000年に国連開発計画(UNDP)に入る。バルバドスおよび東カリブ地域事務所常駐代表代行、赤道ギニア事務所常駐副代表などを歴任。

学生へのメッセージ

広島女学院大学の皆さま、こんにちは。国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所長の三上知佐です。今回、二日間にわたって皆さまとお話をする機会をいただきました。一日目は、私が国際機関を目指したきっかけや仕事のやりがい、国際機関やグローバルなキャリアを目指す学生が今から身につけておきたいスキル・経験などについてお伝えできればと思います。二日目は、私が現在勤めている国連訓練調査研究所(ユニタール)の実際の活動についてご紹介できればと思います。よろしくお願いいたします。

ユニタールとは(ホームページより) <https://unitar.org/ja/hiroshima>

開発途上国の人材育成などを行う機関として1963年に設立され、スイス・ジュネーブの本部のほか、ニューヨーク事務所、広島事務所、ドイツ・ボン事務所があり、世界中に様々な拠点やネットワークをもっています。

2024年度第24回キリスト教主義大学ジョイント8.6平和学習プログラム参加者募集中です!

今年で第24回目を迎えます「キリスト教主義大学ジョイント8.6平和学習プログラム」の参加者を募集しています。このプログラムは、本学学生と宗教委員会が他大学に参加を呼びかけて、ともにこの被爆地ヒロシマを舞台に平和の問題を考える集いです。コロナウィルス感染予防のため、2020年度は中止、2011年度から2023年度はオンラインで開催しました。今年度は対面で行います。8月4日(日)から6日(火)まで3日間のプログラムで実施し、平和記念公園にて資料館見学・碑めぐり、また、講義、平和祈念式出席、意見交換などを行います。

企画から実施まで、このプログラム全般にわたって活動する参加者を募集しています。(ハンドブックのP14もご参照ください)

問い合わせ・申し込みは、宗教センターまで。
Tel: 082-228-0415 Mail: hjucac@gaines.hju.ac.jp



*詳細が決まり次第、ポータル等を通じて連絡しますのでご確認ください。

キリスト教に基づくエッセイ 54

アメリカで出会った Circle of Kindness 国際英語学科 大崎 美佳

大学で讃美歌を歌うとき、懐かしい気持ちがふっと蘇る。本学の中学、高等学校の生徒だった頃は、聖書の言葉を聞き、讃美歌を皆で歌うことで心が落ち着き、清らかな気持ちで満たされるようだった。各々が自然とメインソプラノとアルトに分かれて讃美歌を歌い、美しいコーラスを生み出していた。私はアルトだった。高校生の時は、テニス部の県大会、中国大会、インターハイなど大きな大会に行く朝は必ず、講堂での朝の祈りの時に、「練習してきた力が発揮できますように」と心の中で祈って、その祈りを自分の中の力に変えていた。讃美歌、聖書、祈りが私の中の大切な一部として存在していたことを、大学教員になって改めて気付かされた。

米国に移り住み、大学院で外国語教育を学び、教員として過ごした6年間はあっという間であった。しかし、異国の誰一人知らない土地で人生を切り開いていった経験は私にとってかけがえのないものであり、今の私という人間を支え導いてくれた時間でもあった。「誰一人知らない」というと一人で頑張ったように聞こえるかもしれないが、全くその逆で、至る所で様々な人に助けられた感謝の気持ちで一杯の学生生活、教員生活であった。サンクスギビングやクリスマスには皆、家族の待つ家に帰省して行く中、私は毎年アメリカ滞在の最初にお世話になったホームステイファミリーから連絡をもらい、数日間泊まりに行ったり、友達や同僚に招待されたりと、いつも心温まる休暇を過ごさせてもらった。

カリフォルニア大学サンタバーバラ校で1週間のワークショップに参加した際、帰りはサンフランシスコに立ち寄りユースホステルに滞在することにしていた。それを聞いたサンフランシスコのバイリンガルスクールから参加していた校長先生が「ユースホステルに泊まるのなら家に泊まればいい」とおっしゃり、サンフランシスコでは宿泊させていただいた上、車であちこち案内していただいた。また、意外にも肌寒い中Tシャツしか着ていなかった私に、学校のトレーナーをプレゼントまでしてくださった。大変な難く感謝の言葉を口にした時に彼女から言われたのは、「気にしなくていいから。親切にしたからといって、その人から何かを返してもらおうとは思っていないし、きっと巡り巡ってどこかから親切が返ってくるものだから。あなたは他の人にまた親切にすればいい。」なんと大きな、グローバルな視野からくる言葉なのだろうかと感心すると同時に、その素敵な言葉を深く心に刻んだ。

「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。」という聖書の1節がある。この言葉を実際に行動で示し、愛情と思いやりを持って親切にくださった沢山の人たちと出会い、私は素晴らしい経験をする事ができた。アメリカで過ごした日々を思い出すと、苦労したことの何十倍、何百倍も幸せな思い出ばかりが心に浮かんでくる。経験して感謝して心に刻んだからこそ、人のために自分ができることを思いながら、日々のお出合いを大切にしていきたい。



日本語クラスの授業風景



ホームステイ家族とホームパーティー



New York 新名所「ハドソン・ヤード・ベッセル」

★2024年度宗教委員を紹介します★

新年度が始まりました。新入生、上級生のみなさん、広島女学院大学の建学の精神への理解を深め、現代社会のさまざまな出来事を学んでいきましょう。宗教委員会は「キリスト教の時間」、「木曜日チャペル」を始め、多彩な行事と活動を企画していきます。意見や感想など、どんなことでも私たち宗教委員、宗教センター職員に気軽にお寄せください。

- 大学宗教委員長・宗教センター長 あわづ はら かつし 粟津原 淳 先生（日本キリスト教団教務教師、国際英語学科）
 宗教委員 前田 美和子 先生（日本キリスト教団教務教師、日本文化学科）
 Robert Dormer 先生（国際英語学科）
 一色 舞子 先生（日本文化学科）
 鍵山 昌信 先生（生活デザイン学科）
 佐藤 努 先生（管理栄養学科）
 中山 貴司 先生（児童教育学科）
 宗教センター 今井 妙 加納 暢子

2024年度 前期チャペル表（4月～7月）

前期主題：「君が動けば何かが変わる」（ヨハネによる福音書5章6節～9節）

“Something will happen if you start taking action.”（John 5:6-9）

*状況に応じて変更になる場合があります。変更については随時ポータルサイトでお知らせします。

月	日	火曜日「キリスト教の時間」 13:00～13:45 砂本記念講堂	司会	木曜日チャペル 12:30～12:50 ゲーンズチャペル	
4	9	「賛美歌を歌おう（賛美歌のお話と歌唱指導）」 大学オルガニスト 玉理 照子 先生 （広島女学院同窓生、日本キリスト教団讃美歌委員）	玉理	11 パイプオルガンコンサート 大学オルガニスト 玉理 照子 先生	
	16	【前期主題解説】 「君が動けば何かが変わる」（ヨハネによる福音書5章6節～9節） 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生	粟津原	18 【学生活動報告】 管理栄養学科 海外FW（2月）報告	
	23	【ゲーンズ記念礼拝】 ※ゲーンズデー コリントの信徒への手紙一 3章6～9節 院長・学長 三谷 高康 先生	粟津原	25 図書課 應本 真由美 さん	
	7	「カルト宗教の危険性について」 高木 総平 先生（中部学院大学 宗教総主事）	中山	9 管理栄養学科実験実習助手 村上 純子さん	
	14	日本赤十字社 広島県赤十字血液センター	鍵山	16 【学生活動報告】 日本文化学科	
5	21 (火)	特別企画 パネル展示「ユニタールの活動紹介」			
	22 (水)	キリスト教の時間 13:00～13:45 砂本記念講堂 「国際協力をライフワークにして」 三上 知佐さん（国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所長） 司会：大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生	★聖歌隊		
	23 (木)	特別講演会 13:00～14:30 砂本記念講堂 「国連訓練調査研究所（ユニタール）の活動について」 三上 知佐さん（国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所長） 司会：大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生 ★講師を囲む懇談会 14:45～15:45（ゲーンズチャペルロビー）			
	28	木曜日チャペル 12:30～12:50 ゲーンズチャペル 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生	◆学内献血◆ 5月24日(金) 12:30～16:30 場所：ヒノハラホール前		
6	4	清胤 祐子 先生 （浄土真宗本願寺派 正覚寺坊守・安芸太田町教育長職務代理）	中山	30 国際英語学科 Duró Ágota 先生	
	11	「自分らしく過ごすためのライフ＆ファイナンシャルプラン」 梶本 利恵 さん （広島ファイナンシャルプランニング ㈱ 代表取締役）	一色	6 【学生活動報告】 生活デザイン学科 「着物リメイクラボ」	
	18	【プライド月間】 福田 清華 さん （広島大学大学院人間社会科学研究所科博士課程前期2年）	佐藤	13 【学生活動報告】 チャペル委員 ～プライド月間によせて	
	25	【沖縄慰霊の日を祈念して】 沖縄県人会顧問 中村 盛博 さん、本学名誉教授 桐木 建始 先生、 沖縄県人会「南風（ふえーかじ）」の皆さま	中山	20 生活デザイン学科 実習助手 山本 美稀 さん	
7	2	八剣 学 さん、宇野本 翼 さん、 （日本エスキーテニス連盟、広島県エスキーテニス連盟 理事）	一色	27 人事・会計課 住田 葉子 さん	
	第58回原爆講座 – 8.6の意味するもの –				
	9	【被爆証言】 切明 千枝子 さん （広島市原爆被害者の会 理事、広島県被爆者団体協議会 被爆を語り継ぐ会会員、広島平和記念資料館 被爆証言者）	佐藤	4 【学生活動報告】（被服支廠） 児童教育学科 4年 三原 奏子 さん	
	16	高橋 信雄 さん （広島教育研究所理事、広島県原水協代表理事）	鍵山	11 チャペルオルガニストによる オルガンコンサート	
	23	濱田 裕三 先生（日本キリスト教団東広島教会牧師） ミルキーハウスの皆さま	佐藤	18 児童教育学科 加藤 美帆 先生	
23	「前期を振り返って」 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生	粟津原	25 院長・学長 三谷 高康 先生		

※ プライド月間とは、毎年6月に世界各地でLGBTQ+の権利を啓発するための活動が行われる期間のことです。

《参考》SDGs CONNECT <https://sdgs-connect.com/archives/54510#second>
期間中、展示や皆さんとともに考えるイベントを企画しています。

※ 「キリスト教の時間」 奏楽：大学オルガニスト 玉理 照子先生